

基本構想（総括部会案）第 1 回総括部会意見反映版

基本構想総括部会案諮問案比較表

（総括部会案及び事務局修正案）の 網掛け部分 は、第 1 回総括部会で審議した箇所
 （総括部会案及び事務局修正案）及び（諮問案）の アンダーライン は、諮問案から修正した箇所
 ※総括部会以外の委員からの意見について検討し、修正した箇所もあります。

基本構想（総括部会案及び事務局修正案）	基本構想（諮問案）
この基本構想は、長期的展望に立ち、これからの那覇市の将来像とその実現のための基本的な理念と方向性を示すものです。具体的には、市民と行政がともにめざすべき本市の将来像を「まちづくりの将来像」として掲げ、その実現のための基本理念として「<u>まちづくりの姿勢</u>」を、方向性として「めざすまちの姿」を明らかにしました。さらに、組織横断的に取り組むべき重点取組事項と行政のあるべき姿を示した上で、先に策定した那覇市まち・ひと・しごと創生総合戦略（人口ビジョン）を踏まえ本構想の計画期間終了時点での人口の目標を設定し、総合的で計画的なまちづくりを進めます。 1 まちづくりの将来像 なはで暮らし、働き、育てよう！笑顔広がる元気なまち NAHA ～みんなでつなごう市民力～ 万国津梁の精神で大海原を舞台に雄飛した琉球王国の文化と歴史を今に受け継ぐ私たちの那覇市は、大正 10 年（1921 年）に市制を施行して以来、美しいまちなみと亜熱帯特有の自然が調和した都市を形成してきました。 沖縄戦によるゼロからの再出発を余儀なくされ、さらには、米軍による統治を経験してきたものの、平和と自治を希求する市民の力によって、少しずつかつてのにぎわいを取り戻してきました。産業や経済、医療、教育、文化などの都市機能を集積させながら、今では、県都としての風格を備えた都市へと発展しています。 このような激動の時代を歩んできた本市は、本計画期間中に市制施行 100 周年を迎えます。先人たちのたゆまぬ努力に想いを馳せ、これまでの 100 年で築き上げた	この基本構想は、長期的展望に立ち、これからの那覇市の将来像とその実現のための基本的な理念と方向性を示すものです。具体的には、市民と行政がともにめざすべき本市の将来像を「まちづくりの将来像」として掲げ、その実現のための基本理念として「<u>市政運営の姿勢</u>」を、方向性として「めざすまちの姿」を明らかにしました。さらに、組織横断的に取り組むべき重点取組事項と行政のあるべき姿を示した上で、先に策定した那覇市まち・ひと・しごと創生総合戦略（人口ビジョン）を踏まえ本構想の計画期間終了時点での人口の目標を設定し、総合的で計画的なまちづくりを進めます。 1 まちづくりの将来像 なはで暮らし、育て、働こう！笑顔広がる元気なまち NAHA ～みんなでつなごう市民力～ 万国津梁の精神で大海原を舞台に雄飛した琉球王国の文化と歴史を今に受け継ぐ私たちの那覇市は、大正 10 年（1921 年）に市制を施行して以来、美しいまちなみと亜熱帯特有の自然が調和した都市を形成してきました。 沖縄戦によるゼロからの再出発を余儀なくされ、さらには、米軍による統治を経験してきたものの、平和と自治を希求する市民の力によって、少しずつかつてのにぎわいを取り戻してきました。産業や経済、医療、教育、文化などの都市機能を集積させながら、今では、県都としての風格を備えた都市へと発展しています。 このような激動の時代を歩んできた本市は、本計画期間中に市制施行 100 周年を迎えます。先人たちのたゆまぬ努力に想いを馳せ、これまでの 100 年で築き上げた

基本構想（総括部会案及び事務局修正案）	基本構想（諮問案）
風格を大切にするとともに、これからの 100 年に向けて確実な一歩が踏み出せるよう、新たな礎を築いていかなければなりません。 私たちは、<u>輝かしい未来に向かって歩みながら、一人ひとりの市民の力をみんなでつないでいくことをまちづくりの基礎とします。</u>その上で、愛着と誇りを持って暮らし、<u>働き、子育てを楽しむ市民の笑顔が広がる「わった一自慢」のなは、那覇、NAHA を築いていきます。</u>	風格を大切にするとともに、これからの 100 年に向けて確実な一歩が踏み出せるよう、新たな礎を築いていかなければなりません。 私たちは、一人ひとりの市民の力をみんなでつないでいくことをまちづくりの基礎とします。その上で、<u>輝かしい未来に向かって歩みながら、愛着と誇りを持って暮らし、子育てを楽しみ、活き活きと働く市民の笑顔が元気いっぱい広がる活力あふれる「わった一自慢」のなは、那覇、NAHA を築いていきます。</u>
2 まちづくりの姿勢 本計画の推進に当たっては、まちづくりの担い手一人ひとりを結びつける「絆」が重要となります。<u>互いの絆が深まれば、全ての施策の成果がジグソーパズルのようにつながり、やがて面として、市全体に広がります。</u><u>次の 5 つの絆を築いていくことをまちづくりの基本的な姿勢とします。</u> (1) 協働の絆 情報の共有と対話の積み重ねにより、様々な担い手の連携の輪をつなぎ、愛着と誇りを持って地域をつないでいきます。 (2) 共生の絆 性の多様性を認識しつつ、世代や性別、国籍、障がいの有無にかかわらず全ての人が、<u>生きがいをもって暮らし、寛容の心で優しい社会を築いていきます。</u> (3) 元気の絆 ヒト・モノ・カネ・情報といった地域資源の可能性を最大限に活用し、<u>市民の笑顔が重なり、明日への活力がみなぎるまちを築いていきます。</u> (4) 共鳴の絆 柔軟な発想で独創的な施策を展開するとともに、まちの活性化につながる新たな事例を学び、積極的に取り入れる発展の連鎖を響かせていきます。 (5) 平和の絆 国際社会の一員として、過去の苛烈な体験を胸に刻み、先人の平和を願う強い想	2 市政運営の姿勢 本計画を効果的かつ確実に推進するためには、一人ひとりが結びつく絆が重要となります。<u>それにより、全ての施策がジグソーパズルのように互いにつながり、やがて面となり、市全体に広がります。</u><u>そのために、次の K から始まる 5 つの絆を築いていくことを市政運営の姿勢としてまちづくりを進めていきます。</u> (1) 協働の絆 (Kyodo) 情報の共有と対話の積み重ねにより、様々な担い手の連携の輪をつなぎ、愛着と誇りを持って地域をつないでいきます。 (2) 共生の絆 (Kyosei) 子どもから高齢者までの<u>全ての人が、世代や性別の枠を超えて 1 人ひとりの暮らしと生きがいを、ともに創り高め合う社会を築いていきます。</u> (3) 活力の絆 (Katuryoku) ヒト・モノ・カネ・情報といった地域資源の可能性を最大限に活用し、<u>市民の日常や経済活動を活性化させていきます。</u> (4) 共鳴の絆 (Kyomei) 地域や他自治体の好事例を学び、積極的に取り入れ、水平展開し、発展の連鎖を響かせていきます。 (5) 寛容の絆 (Kanyo) 様々な課題が多様化する現代社会にあっても価値観や立場の違いを乗り越え、お

基本構想（総括部会案及び事務局修正案）	基本構想（諮問案）
<u>いを引き継ぎ、さらに発信することで、次世代を担う子どもたちの未来を守ります。</u> 3 めざすまちの姿 まちづくりの将来像として掲げたまちの姿を具体化するために、5つのめざすまちの姿によって進むべき方向性を示します。これらは、<u>それぞれ独立するものではなく、互いに密接に連携しながら本市の将来像を実現するものです。</u> 自治・協働・男女参画・平和・防災・防犯 多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全・安心に暮らせるまち NAHA イチャリバチョーデーとユイマールの精神でおおらかなコミュニティを築きながら発展してきた本市は、個人や個性を尊重し、多様な生き方が認められる素地が整っています。挨拶から始まる交流が世代を超えてつながり、市民みんなが主役となり楽しく安全・安心に暮らせるまちをめざします。 そのために、お互いが思いやりや譲り合いの気持ちであふれ、心と心が響きあい・紡ぎ合う協働によるまちづくりによって地域の力を高めていきます。小さな「わ」が大きな「WA」※1へとつながるように、自助、近助※2、共助、公助の役割を確認しながら、地域の人々と行政が対話を重ね、地域の課題解決に協働で取り組みます。防災・防犯に関する活動等を重ねながら、地域が結束した誇り高いまちづくりを進めます。さらに、恒久平和を希求する市民の想いを未来へと発信するとともに、一人ひとりの人権が尊重され、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めます。 ※1 地域の通り会やサークルなどの小さなグループ「わ」をつなぎ、国際都市に相応しい大きなコミュニティ「WA」へと発展させたいという市民の思いが表現されています。 ※2 近助とは、共助よりもより身近な地域で思いやりや譲り合いの心を基本にした自然に出てくる助け合いを指す言葉として、この言葉に感銘を受けた市民から提	<u>おらかに受け入れ、包み込むことで、心に優しい社会を築いていきます。</u> 3 めざすまちの姿 まちづくりの将来像として掲げたまちの姿を具体化するために、5つのめざすまちの姿によって進むべき方向性を示します。これらは、<u>互いに独立するものではなく、有機的に連携しながら本市の将来像を実現するものです。</u> 自治・協働・男女参画・平和・防災・防犯 多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全・安心に暮らせるまち NAHA イチャリバチョーデーとユイマールの精神でおおらかなコミュニティを築きながら発展してきた本市は、個人や個性を尊重し、多様な生き方が認められる素地が整っています。挨拶から始まる交流が世代を超えてつながり、市民みんなが主役となり楽しく安全・安心に暮らせるまちをめざします。 そのために、お互いが思いやりや譲り合いの気持ちであふれ、心と心が響きあい・紡ぎ合う協働によるまちづくりによって地域の力を高めていきます。小さな「わ」が大きな「WA」※1へとつながるように、自助、近助※2、共助、公助の役割を確認しながら、地域の人々と行政が対話を重ね、地域の課題解決に協働で取り組みます。防災・防犯に関する活動等を重ねながら、地域が結束した誇り高いまちづくりを進めます。さらに、恒久平和を希求する市民の想いを未来へと発信するとともに、一人ひとりの人権が尊重され、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めます。 ※1 地域の通り会やサークルなどの小さなグループ「わ」をつなぎ、国際都市に相応しい大きなコミュニティ「WA」へと発展させたいという市民の思いが表現されています。 ※2 近助とは、共助よりもより身近な地域で思いやりや譲り合いの心を基本にした自然に出てくる助け合いを指す言葉として、この言葉に感銘を受けた市民から提

基本構想（総括部会案及び事務局修正案）	基本構想（諮問案）
案された造語です。 保健・福祉・医療 互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA 超高齢社会の到来、少子化及び核家族化が進行する中においては、地域のつながりがより重要になります。すべての人が自分らしく輝き地域の一員として見守り・見守られ心身ともに健やかで安心して暮らせるまちをめざします。 そのために、地域と世代がつなぐ支え合いにより、<u>子どもも、お年寄りも、障がいのある人も、ない人も、</u>皆が夢や生きがいをもち、地域の中で安心して暮らせるまちづくりを進めます。また、誰もが健康で文化的な生活基盤のもとに健やかに育つ環境を整え、次代を担う子供たちの夢や希望を応援します。一人ひとりが自らの健康づくりに取り組むよう、市民の健康意識を高めるとともに、誰もが身近な地域で良質な医療を受けられるまちづくりを進めます。住み慣れた地域で自分らしく暮らせるよう医療、介護、介護予防、住まい、日常生活の支援が包括的に確保される体制を確立します。大災害や感染症等の原因により生じる健康危機から市民や来訪者の健康を守る体制を整えます。 子ども・教育・文化 未来を拓き豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA まちづくりはひとづくりと言われるように、これからの新しい時代を切り拓く人材を輩出する必要があります。人間性豊かで創造性・協調性に富む自立した市民が、夢と希望にあふれて成長し、豊かな学びと文化が薫る、誇りあるまちをめざします。 そのために、地域全体で子どもや若者の成長を応援し、市民が夢と希望にあふれ、子育てが楽しくなるまちづくりを進めます。保育や教育の充実のためには、家庭や	案された造語です。 保健・福祉・医療 互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA 超高齢社会の到来、少子化及び核家族化が進行する中においては、地域のつながりがより重要になります。すべての人が自分らしく輝き地域の一員として見守り・見守られ心身ともに健やかで安心して暮らせるまちをめざします。 そのために、地域と世代がつなぐ支え合いにより、<u>障がいのある人も、ない人も、子どもも、お年寄りも、</u>皆が夢や生きがいをもち、地域の中で安心して暮らせるまちづくりを進めます。また、誰もが健康で文化的な生活基盤のもとに健やかに育つ環境を整え、次代を担う子供たちの夢や希望を応援します。一人ひとりが自らの健康づくりに取り組むよう、市民の健康意識を高めるとともに、誰もが身近な地域で良質な医療を受けられるまちづくりを進めます。住み慣れた地域で自分らしく暮らせるよう医療、介護、介護予防、住まい、日常生活の支援が包括的に確保される体制を確立します。大災害や感染症等の原因により生じる健康危機から市民や来訪者の健康を守る体制を整えます。 子ども・教育・文化 未来を拓き豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA まちづくりはひとづくりと言われるように、これからの新しい時代を切り拓く人材を輩出する必要があります。人間性豊かで創造性・協調性に富む自立した市民が、夢と希望にあふれて成長し、豊かな学びと文化が薫る、誇りあるまちをめざします。 そのために、地域全体で子どもや若者の成長を応援し、市民が夢と希望にあふれ、子育てが楽しくなるまちづくりを進めます。保育や教育の充実のためには、家庭や

基本構想（総括部会案及び事務局修正案）	基本構想（諮問案）
地域、学校が一体となった環境が重要であり、学校を地域のまちづくりの拠点にします。子ども達が知的好奇心を高め、自ら学び成長していくプロセスを応援するとともに、その未来を拓く教育を推進する環境を整えます。いつでもどこでもだれでも学びやスポーツを楽しめるまちづくりを進めます。 また、しまくとうばに身近に接するとともに、郷土の歴史や伝統文化等の価値を再確認する機会を創出し、それらにふれあい、受け継ぎながら、新たな文化を創造・発展させ、日常に文化が薫るまちづくりを進めます。 産業・観光・情報 ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA 我が国の南の玄関口として、アジアに開かれた本市は、<u>アジアのダイナミズムを取り込むことによる新たな時代の到来が現実のものとなりつつあります。</u>この機会を確実に捉え、国内外から優れたヒトやモノが集い、そこから新たなモノやコトを生み出し、世界へ羽ばたくことで、躍動感がみなぎる万国津梁のまちをめざします。 そのために、先人が築き上げた歴史や文化、<u>温暖な気候や自然環境を活かし国内のみならず外国からの旅行者が何度も訪れたい観光地としての地位を築きます。</u>また、<u>経済成長の著しいアジアにあって主要都市との近接性等の地理的優位性を活かしたビジネスとリゾートが融合するビジネスリゾート地として新たな地位を築きます。</u>さらに、<u>市内に集積が進んだ情報通信関連産業はもとより、新たな可能性を秘めた国際物流産業をはじめとする様々な産業の活性化や連携を図ります。</u>また、昔ながらのマチグワー等の地域資源を活かした産業の育成・振興を図るとともに、市民一人ひとりの働く力をさらに発揮できる<u>労働環境を整え、商都那覇としての活力を高めます。</u>	地域、学校が一体となった環境が重要です。学校を地域のまちづくりの拠点にするとともに、<u>子ども達の知的好奇心を高め、その未来を拓く教育を推進する環境を整えます。</u><u>子どもが楽しく学びたくなり、いつでもどこでもだれでも学びやスポーツを楽しめるまちづくりを進めます。</u> また、郷土の歴史や伝統文化等の価値を再確認する機会を創出するとともに、芸能や文化にふれあい、受け継ぎながら、新たな文化を創造・発展させ、文化が薫るまちづくりを進めます。 産業・観光・情報 ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA 我が国の南の玄関口として、アジアに開かれた本市は、<u>世界水準にふれあい、つながり、ひろがることで新たな時代を切り拓く可能性を秘めています。</u>この機会を確実に捉え、国内外から優れたヒトやモノが集い、そこから新たなモノやコトを生み出し、世界へ羽ばたくことで、躍動感がみなぎる万国津梁のまちをめざします。 そのために、先人が築き上げた歴史や文化と、<u>四季を通じて温暖な恵まれた気候を活かした国際リゾート地として、また、国内のみならず外国からの旅行者が何度も訪れたい観光地としての地位を築きます。</u>さらに、<u>リーディング産業である観光産業や情報通信関連産業はもとより、様々な産業の活性化や連携を図るとともに、アジアの主要都市との近接性と言った地理的優位性や昔ながらのマチグワー等の地域資源を活かした産業の育成・振興を図ります。</u>市民一人ひとりの働く力をさらに発揮できる環境を整えます。

基本構想（総括部会案及び事務局修正案）	基本構想（諮問案）
環境・都市基盤 都市機能と自然環境が調和した住みつづけたいまち NAHA 本市は、亜熱帯の庭園のような都市をめざし、魅力にあふれ住みよいまちとして発展してきました。これからも安全・安心で快適な都市機能と低炭素社会の実現に向けた地球にやさしい環境共生都市が調和した、誰もが訪れたい、住みつづけたいまちをめざします。 そのために、市内にある貴重な自然環境と多様な生態系を後世に残し、環境再生活動に積極的に取り組みます。災害に強く、安全・安心で快適な道路や公園、交通システム、ライフラインである上下水道等必要な都市基盤の整備とともに、西海岸に広がるウォーターフロントエリアの整備を進めます。亜熱帯地域にふさわしい緑と水辺空間を保全・創出するとともに、市民や事業者と連携し公共空間のリノベーションに取り組み、快適で住みよいまちづくりを進めます。返還が予定されている那覇軍港の跡地利用については、臨港・臨空の優位性が発揮される活用を意識します。 4 重点取組事項 ～NEXT-100☆まちの「仕次ぎ」プロジェクト～ 100 年を超える泡盛の古酒（クース）は、丁寧な「仕次ぎ」により、その芳醇な香りとまろやかな風味を後世に引き継いできました。本計画期間中、市制施行 100 年を迎える本市にあつては、これまでの確かな歩みを進めながら、次の 100 年にも想いを馳せなければなりません。活力にあふれ、次世代の笑顔が輝く那覇市になるよう、これからの 100 年を展望し、まちの「仕次ぎ」として新たなしくみづくりに取り組みます。未来を拓く 3 つの「力」が確実に発揮されるよう、以下を重点取組事項と位置づけ、全庁横断的な推進体制を構築し、様々な施策を展開していきます。 ☆地域の「力」が広がるしくみづくり	環境・都市基盤 都市機能と自然環境が調和した住みつづけたいまち NAHA 本市は、亜熱帯の庭園のような都市をめざし、魅力にあふれ住みよいまちとして発展してきました。これからも安全・安心で快適な都市機能と低炭素社会の実現に向けた地球にやさしい環境共生都市が調和した、誰もが訪れたい、住みつづけたいまちをめざします。 そのために、市内にある貴重な自然環境と多様な生態系を後世に残し、環境再生活動に積極的に取り組みます。災害に強く、安全・安心で快適な道路や公園、交通システム、ライフラインである上下水道等必要な都市基盤の整備とともに、西海岸に広がるウォーターフロントエリアの整備を進めます。亜熱帯地域にふさわしい緑と水辺空間を保全・創出するとともに、市民や事業者と連携し公共空間のリノベーションに取り組み、快適で住みよいまちづくりを進めます。返還が予定されている那覇軍港の跡地利用については、臨港・臨空の優位性が発揮される活用を意識します。 4 重点取組事項 ～NEXT-100☆まちの「仕次ぎ」プロジェクト～ 100 年を超える泡盛の古酒（クース）は、丁寧な「仕次ぎ」により、その芳醇な香りとまろやかな風味を後世に引き継いできました。本計画期間中、市制施行 100 年を迎える本市にあつては、これまでの確かな歩みを進めながら、次の 100 年にも想いを馳せなければなりません。活力にあふれ、次世代の笑顔が輝く那覇市になるよう、これからの 100 年を展望し、まちの「仕次ぎ」として新たなしくみづくりに取り組みます。未来を拓く 3 つの「力」が確実に発揮されるよう、以下を重点取組事項と位置づけ、全庁横断的な推進体制を構築し、様々な施策を展開していきます。 ☆地域の「力」が広がるしくみづくり

基本構想（総括部会案及び事務局修正案）	基本構想（諮問案）
小学校区を拠点とし、自治会、学校、NPO、企業等が新しいコミュニティを築くとともに、様々な地域資源を結び付けていくシステムを構築し、お互いに出来ることを持ち寄ることで、まちの活性化を進め、地域の「力」が広がるしくみをつくります。 ☆稼ぐ「力」を高めるしくみづくり より身近になるアジアとのつながりを強め、成長産業分野を担うグローバル人材を育成するとともに、土地の高度利用を促進し人材や企業の集積を進め市域全体の経済的な基盤を強化することで、稼ぐ「力」を高めるしくみをつくります。 ☆ひきつける「力」が輝くしくみづくり 景観の美化や交通環境を充実させるとともに、子育てや就労の環境を整えることで、訪れたい、暮らしたいと思えるまちの魅力を高め、多くの人をひきつける「力」が輝くしくみをつくります。	小学校区を拠点とし、自治会、学校、NPO、企業等が新しいコミュニティを築くとともに、様々な地域資源を結び付けていくシステムを構築し、お互いに出来ることを持ち寄ることで、まちの活性化を進め、地域の「力」が広がるしくみをつくります。 ☆稼ぐ「力」を高めるしくみづくり より身近になるアジアとのつながりを強め、成長産業分野を担うグローバル人材を育成するとともに、土地の高度利用を促進し人材や企業の集積を進め市域全体の経済的な基盤を強化することで、稼ぐ「力」を高めるしくみをつくります。 ☆ひきつける「力」が輝くしくみづくり 景観の美化や交通環境を充実させるとともに、子育てや就労の環境を整えることで、訪れたい、暮らしたいと思えるまちの魅力を高め、多くの人をひきつける「力」が輝くしくみをつくります。
5 基本構想を推進するために ～市民との信頼を深め、将来にわたり持続可能な行政～ 基本構想で描く「めざすまちの姿」を実現するためには、市民一人ひとりがまちづくりの主役となり、協働によるまちづくりをさらに深化させる必要があります。そのために、行政は、限られた経営資源である「ヒト・モノ・カネ・情報」を有効に活用しながら、市民との信頼をさらに深め、将来にわたり持続可能な行財政運営を行わなければなりません。 ☆市民との信頼を深める職員・組織づくり 市民との信頼を深めるためには、市民から頼りにされる「ヒト」が継続して育ち、様々な「情報」を市民と共有する必要があります。市民ニーズに合った質の高い行政サービスを提供するため、職員の政策形成能力や協働を推進するためのコーディネート能力を高めるとともに、社会環境の変化に適切かつ迅速に対応できる組織機構を構築します。職員の健康やワークライフバランスに配慮し、適正な定員管理を	5 基本構想を推進するために ～市民との信頼を深め、将来にわたり持続可能な行政～ 基本構想で描く「めざすまちの姿」を実現するためには、市民一人ひとりがまちづくりの主役となり、協働によるまちづくりをさらに深化させる必要があります。そのために、行政は、限られた経営資源である「ヒト・モノ・カネ・情報」を有効に活用しながら、市民との信頼をさらに深め、将来にわたり持続可能な行財政運営を行わなければなりません。 ☆市民との信頼を深める職員・組織づくり 市民との信頼を深めるためには、市民から頼りにされる「ヒト」が継続して育ち、様々な「情報」を市民と共有する必要があります。市民ニーズに合った質の高い行政サービスを提供するため、職員の政策形成能力や協働を推進するためのコーディネート能力を高めるとともに、社会環境の変化に適切かつ迅速に対応できる組織機構を構築します。職員の健康やワークライフバランスに配慮し、適正な定員管理を

基本構想（総括部会案及び事務局修正案）	基本構想（諮問案）
行っていきます。情報セキュリティ対策に万全を期して個人情報適切に管理し、様々な情報をわかりやすく整理し、発信、提供します。 ☆持続可能な行財政運営を行う 時代とともに多様化していく市民サービスを行うためには、効率的で効果的に「モノ」や「カネ」を管理するという行財政運営を行う必要があります。公共施設については、将来の推計人口に対応するための適切なあり方を見出すとともに、必要に応じて、民間の知恵と経験を活用します。行政経営的な視点を取り入れながら計画的な執行管理と財務情報に関する説明責任の充実による規律ある財政運営を行います。目的を共有し、時代に見合った行政サービスの品質を確保するとともに、総合計画が市民と行政がともにめざすまちの姿の羅針盤となるよう効果的な進捗管理の手法を確立します。	行っていきます。情報セキュリティ対策に万全を期して個人情報適切に管理し、様々な情報をわかりやすく整理し、発信、提供します。 ☆持続可能な行財政運営を行う 時代とともに多様化していく市民サービスを行うためには、効率的で効果的に「モノ」や「カネ」を管理するという行財政運営を行う必要があります。公共施設については、将来の推計人口に対応するための適切なあり方を見出すとともに、必要に応じて、民間の知恵と経験を活用します。行政経営的な視点を取り入れながら計画的な執行管理と財務情報に関する説明責任の充実による規律ある財政運営を行います。目的を共有し、時代に見合った行政サービスの品質を確保するとともに、総合計画が市民と行政がともにめざすまちの姿の羅針盤となるよう効果的な進捗管理の手法を確立します。
6 将来人口 本市の人口は、平成 27 年（2015 年）の国勢調査では 319,435 人となっています。那覇市まち・ひと・しごと創生総合戦略の人口ビジョンにおいては、平成 27 年から平成 32 年の間に人口のピークを迎え、その後、減少を続け平成 72 年（2060 年）には、約 25 万 4 千人にまで減少し、働き手である生産年齢人口の総人口に対する割合は 63.9%から 53.6%にまで減少し、人口構成も大きく変化すると推計しています。本計画期間終了直後の平成 42 年（2030 年）では、総人口は 311,000 人、生産年齢人口の総人口に対する割合は 59.9%と推計しています。 人口減少に歯止めをかけるためには、子育て環境や雇用環境を充実させ、健康長寿の復活に取り組み、笑顔が広がる元気なまちを築いていかなければなりません。本計画においても人口と生産年齢人口の総人口に対する割合において明確な目標を設定し、人口減少問題の克服に向けた確実な一歩を踏み出すこととします。本計画最終年度である平成 40 年の人口の目標は平成 22 年（2010 年）と同水準である 315,000 人とし、生産年齢人口の総人口に対する割合の目標は 61%程度とします。	6 将来人口 本市の人口は、平成 27 年（2015 年）の国勢調査では 319,435 人となっています。那覇市まち・ひと・しごと創生総合戦略の人口ビジョンにおいては、平成 27 年から平成 32 年に人口のピークを迎え、その後、減少を続け平成 72 年（2060 年）には、約 25 万 4 千人にまで減少し、働き手である生産年齢人口の総人口に対する割合は 63.9%から 53.6%にまで減少し、人口構成も大きく変化すると推計しています。本計画期間終了直後の平成 42 年（2030 年）では、総人口は 311,000 人、生産年齢人口の総人口に対する割合は 59.9%と推計しています。 人口減少に歯止めをかけるためには、子育て環境や雇用環境を充実させ、健康長寿の復活に取り組み、笑顔が広がる元気なまちを築いていかなければなりません。本計画においても人口と生産年齢人口の総人口に対する割合において明確な目標を設定し、人口減少問題の克服に向けた確実な一歩を踏み出すこととします。本計画最終年度である平成 40 年の人口の目標は平成 22 年（2010 年）と同水準である 315,000 人とし、生産年齢人口の総人口に対する割合の目標は 61%程度とします。